

京都文教大学教員による宇治商工会議所会員企業紹介

## 組織づくりを研究する多湖が見た企業の魅力

## 《第1回》株式会社 サンフーズジャパン

2023年

11

「健康経営」とは、職場環境や労働条件等の改善に務めること等により、従業員の心身における健康状態を良好なものとし、組織および従業員個人のパフォーマンス向上と業績の向上につなげるための取り組みです。つまり、従業員の健康は業績に直結するという考え方で、企業にとっても、従業員にとっても、非常に重要なものです。

経営学を専門とする大学教員が、社員を大切にす中小の優良企業に焦点を当て、取材を行います。今回は、健康経営を実践している「株式会社サンフーズジャパン様（以下、サンフーズジャパン）」にご協力いただきました。

サンフーズジャパンは、さまざまなSDGs活動を実践しています。中でも「従業員に優しい企業であり続けるために」、「お客様にご満足いただける製品を作るためには、そこで働く従業員の皆さんが気持ちよく仕事ができる環境が大切だと私たちは考えます。」というスローガンのもと、健康経営を実践しています。具体的な取り組みについては、右記よりHPをご参照ください。



(株) サンフーズジャパン 本社 「健康経営優良法人2023」認定証 「健康事業所宣言」

## 【健康経営に取り組むきっかけと得られた結果】

当時の従業員は、業務多忙のため身体に負担が大きい時期でした。また、従業員の中に喫煙者も多く、従業員自身も企業側も健康に対する意識が希薄でした。そのため、従業員に身体の（健康の）大切さを意識してもらい、健康に働いてもらうことが重要であると考え、健康経営に取り組むこととなりました。

実際に健康経営に取り組んだ結果、従業員は生活習慣に変化が現れはじめました。特に食行動の変化が顕著となり、従業員が自身の健康に気遣うようになりました。

## 【健康経営を継続する秘訣】

健康経営の取り組みだけでなく、何か新しいことを始めるときは抵抗勢力がつきものです。めんどくさい、変わりたくない等、理由はさまざまですが、新しい取り組みは成功しにくいものです。しかし、サンフーズジャパンは健康経営の取り組みが成功し、従業員の意識変革という結果を得ています。

何故上手くいったのか。そこには特別なことは何もありませんでした。せいぜい社内の掲示板にて取り組み内容について掲示するだけでしたが、気になる点をいくつか発見しました。それは、①普段から食品業界ならではの衛生管理を徹底していること、②判断に困ったときには上司等のフォローがあること、③従業員間のあいさつが徹底されていること、でした。これらは、普段から従業員間でコミュニケーションが頻繁に行われている（活性化している）ことが要因であると考えられます。つまり、活性化している職場であると言えます。

また、パートさんも含め、従業員間の人間関係も良好な様子であり、職場が活性化していることが要因と考えられます。このような職場では働くこと、職場に行くことが楽しくなるのかもしれませんが、このような職場で働きたいものです。

## 【今回の取材先】



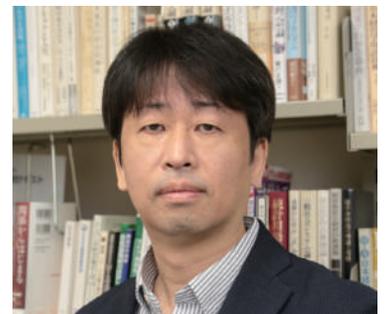
サンフーズジャパンは、1985年に外食産業のセントラルキッチンの役割を担う会社として、京都・宇治の地に誕生した、大手ハンバーガー店やファミリーレストラン等外食チェーン店向けのソースやスープ等を提供している。コロナ禍にあっても成長を続けるものづくり企業。



ホームページ

## 【筆者プロフィール】

多湖 雅博（たごおまさひろ）  
京都文教大学総合社会学部 講師



組織開発を中心に、健康経営、組織行動、組織マネジメントなどを研究しており、従業員と企業がWin-Winの関係を築ける組織を経営学の視点から考察している。

著書に『経営理念・経営ビジョン／経営戦略』（日本医療企画）、『職場の経営学：ミドル・マネジメントのための実践的ヒント』（中央経済社）などがある。

京都文教大学 総合社会学部で、組織の経営やマネジメントに関する調査・研究を行う多湖先生。今月から年に2回程度、宇治商工会議所会員企業で組織の内面を磨き発展している会社を取材し、記事として掲載します。